

平成25年度「みんなの審査会」～市民参加型事業評価～審査結果詳細

事業番号	2-①	事業名	堺エコロジー大学運営事業			
所管	環境	局	環境保全	部	環境総務	課

【事業内容】

○一般講座：子どもから大人まで幅広い層を対象に、環境学習への関心や環境意識の向上を図る「環境教育・環境学習の推進」を目的として様々な講座を実施する。堺市主催の講座(主催講座)と他団体等主催の講座(連携講座)とがある。連携講座には、補助金制度(1講座3万円を上限)を設け、積極的な参画を促している。
 ○専門コース：一般講座等で環境に興味・関心を持った人や企業・団体に所属する人のさらなるステップアップを目的とし、専門性の高い内容を学習する。大阪府立大学「環境学」3科目および市が行う「専門共通講座」「コース別講座」で構成している。専門コース修了生がエコ大サポーターとして活躍する制度も実施している。

総コスト(千円)	(平成24年度決算額)	33,790千円	(平成25年度予算額)	36,365千円
----------	-------------	----------	-------------	----------

【市民審査員・検討委員から頂いた審査シート記載内容】

【今後の方向性】

<市民審査員>						<検討委員(参考意見)>						
今後の方向性	事業の方向性	拡充			5	5	今後の方向性	事業の方向性	拡充			4
		現状維持			3				現状維持			1
		縮小							縮小			
		廃止							廃止			
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大			ゼロ	縮小	現状維持	拡大	
公金投入の方向性						公金投入の方向性						

【今後の方向性】《事業の方向性—公金投入の方向性》を選択した理由

《拡充—現状維持》

- ・環境問題の解決の要は「人づくり」ですので、本事業を拡大し続けていくことが重要だと思いました。ただ、議論にもあったように資金の使い方は要工夫だと思います。個人としては、ホームページの更新だけに150万も使うのはもったいなく、SNS等を入れて、コンテンツ作成も講座の受講生と行えばもっと減らせると思いました。
- ・将来に向けて環境に対する意識を向上させることは非常に重要である。
- ・基本的に環境意識の向上は必要であり、その中核的組織としてさらなる拡充は望ましい。
- ・公金の方向性の上の表では「現状維持」としたが、外部資金の獲得を積極的に行うべき。そうするなら公金の方向性は「縮小」となる。
- ・エコロジーを考えた生活は市民にとって重要なことです。環境の整備は子供のころからの教育も大切と考えます。特に中学生にもぜひ副読本の配布等を検討して欲しいですね。この場合、財団法人等からの資金提供にも努力していくべきかと思えます。エコ大学はいい施策です。これからも充実させてほしいのでよろしく願います。
- ・現状のままでもっと市民にポスター等、分かり易く広げてほしい。堺エコロジー大学はいいのでこのまま広げてほしい。修了証になるだけではもったいないので、もっと先に進んでほしい。
- ・講座を主とする上の活動より多く実施して、環境の重要性をうえ付ける。
- ・意識改革については、長期的、継続的な取り組みが必要。
- ・拡充→広報活動の方法論の見直し。受講対象者の拡大。
- ・環境問題については市民すべてが取り組む必要があり、色々な方策で問題意識の拡大化を必要とする。

《拡充—拡大》

- ・中長期的に低炭素都市「クールシティ堺」の計画。目標を実現していくためには、市民の環境意識の向上。活動に積極的に取り組む人材の育成が重要。
- ・小中学校へのサポーターの派遣、橋渡しが必要。機会を増やすべき。垣根を越えての議論を重ねるべき。
- ・まだまだ市民(特に中学生)のエコ意識が向上しているとは思えない。さらに拡充が必要。
- ・広報の活用を最大限にし、市民の眠れる心に刺激を与えるような施策を。

【今後の方向性】			
<p>《現状維持—現状維持》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の運用方法の改善が必要と考えたから。(効果的な方法を考える。メリハリをつけた運営方法を行う。) ・エコロジー大学の存在を知らなかった。市民にもっと知ってもらえる工夫を考えてほしい。問題点は、この大学が存在する事によって市民の環境認識が高まるのか、ということ深く掘り下げてほしい。 			
【改善策について】(複数回答あり)		審査員	検討委員
改善すべき点	事業の実施内容について見直しが必要(サービスそのもののあり方等)	6	5
	事業規模について見直しが必要(サービスの水準や対象者等)	4	2
	関連事業とのあり方について見直しが必要(統合や再編を含めたあり方等)	5	3
	サービス受給者の負担(受益者負担)について見直しが必要	1	0
	市以外からの財源の確保について見直しが必要	6	2
	担い手のあり方について見直しが必要	6	2
	その他	3	0
<p>【具体的な改善策提案】※【今後の方向性】で選択した《事業の方向性—公金投入の方向性》ごとに記載</p> <p>《拡充—現状維持》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座の内容の体系化と戦略化が必要だと思います。内容面では、行動を起こす人を増やすための活動の組み立て方、広報の仕方講座等を行ってはどうでしょうか。ずっと講座をやってもしょうがないと思います。また、NPOと本気で協働するのであれば助成金の額を増やすべきです。 ・一般講座＝子ども(親子)に特化する。「おとな」を対象にするのはムダ。専門コース＝「おとな」のうち意識の高い人を対象に定員を増しサポーターの増加を目指す。 ・専門コースの充実と規模の拡大を目指すべき。(府立大以外の大学連携講座の開設など)。また、修了者の活動の場、プログラムの橋渡しをすべき。(エコ大内にとどまらない、外部の企業や学校、NPOなど)講師的役割以外にも道はある。 ・講座対象者の相違をある程度意識してカリキュラム編成すべき。(個人的には「子ども」に絞る(重点化)も良いかと考える) ・企業にもっと声掛ければできることが多い気がします。ポイントカード交換賞品の積極的提供。一般講座の講師など ・いろんな意見が出ましたが、エコロジー大学卒業者の小中学校への派遣は良い意見だと思います。 ・今後成長する子供に講座を受けさせず方向性を持ちたい。 ・受講者をサポーターとして協力する事を義務付ける事は疑問。(サポーターとなった人数を目標とすべきでない) ・大阪府立大学受講料の無償化(公的負担) ・子供世代への意識強化の取組みが必要。 <p>《拡充—拡大》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クールシティ堺」の計画実現とカリキュラムとの整合性。3R 水、大気、緑の保護。企業との連携。小中学校でのカリキュラム化。 ・環境学習副読本の充実及び、配布数の増加を検討願いたい。 ・尚、小学校における環境学習のカリキュラムの増加に関しても何らかのアクションを期待します。(対象学校数、学年数) ・子供(特に小学生)は家庭内のオピニオンリーダーです。環境運動推進のエンジンとして環境問題改善の今後将来の活躍を期待したいです。 ・サポーターを小中学校などに派遣し、統合学習等に活用すべし。また、フィードバックとしてアンケートを実施し次回に活用。中学校、高校生サポーターを増やし意識付けをしていく。 ・幅広い層に広げるために、講座として堺市の全中学生対象にしたエコ講座を学校教育の中に設ける。教育委員会と連携する。講座は机上教育(副読本の活用)とリサイクル等の体験学習を組合せる。エコ大パートナーはこの講座の主要なメンバーとして活動していただく。 ・エコ分野の拡充(例えば大阪府南部の東西を結ぶ交通(鉄道)の検討等) 			

【改善策について】

≪現状維持—現状維持≫

- ・「戦略的アプローチ」をとる。→誰に何をどうして欲しいのか。ターゲット設定とターゲットに合ったアプローチ方法、提供するサービス内容を検討する(マーケティングの4P)
- ・市役所内外のネットワークを拡充する→他課の事業への卒業生の橋渡し、連携、企業や団体との連携、大学との連携(南大阪地域大学コンソーシアムをご活用ください)
- ・大学の存在を高め、受講者、卒業生、専門コース卒業生を増やすためには、卒業生、修了者の活用の場を具体的に公表して、魅力のあるものにする事だと思う。
- ・広報活動
- ・重点テーマの組込み。

【自由記入欄】

- ・25年度は大規模シンポジウム開催は予定なしとのことだが、時にはこれも必要。社会的注目を集めるためにも。
- ・運営会議が本事業の政策施策立案にどのように関係しているのか。委員の中に市からの参加が無いようであるが。